

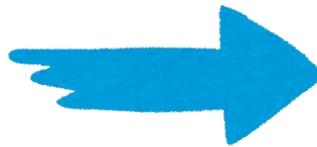
地域部活移行について意見交換会を開催しました

12月8日（火）に紋別市文化会館で合同学校運営協議会（紋別中、潮見中、渚滑中）を開催しました。テーマは「地域部活への移行について」です。

<開催の経緯>

9月（第2回校区CS）

総合芸術部の茶道部門について「指導者がいるのに廃部にすること」について意見交換を行いました。



10月（紋中CS）

学校・地域・保護者の立場から部活動に関して本音をぶつけ合い、課題を共有理解し、課題解決の方策として地域部活が有効であると確認しました。

12月（今回）

地域部活動の問題は紋別中だけの問題ではないため、今回、教育委員会の教育長ほか5名、潮見中、渚滑中のCSの関係者の方々に出席していただきました。様々な立場で話し合うことによって、課題が見えてきました。



課題



- ・茶道の活動場所はあるが、集まるための移動手段の確保が必要である。
- ・校区内の学校に通学し、放課後は活動場所に移動してできるのが望ましい。
- ・野球はクラブ化されたが、指導者の確保ができていない。
- ・各競技団体・協会の熱量が高い部活は移行しやすいのではないか。
- ・中体連には先生の引率が必要なため、参加できなくなってしまう。
- ・地域部活ができてても需要はあるのか。
- ・地域部活は何を目的・目標に行うのか。

（一部抜粋）

学校・地域・保護者の意見を教育委員会と共有できたことは、とても大きな一歩だと思います。出された課題を、行政・地域・学校のそれぞれの立場で解決し、納得する形で紋別版地域部活へのスムーズな移行に繋がることを願っています。これからも紋別市全体で取り組んでいければCSというものも意味のある組織になるのではないのでしょうか。

※この内容については、下記の通り取り上げていただきました。
 北海道通信 日刊教育版 第11841号 12月17日 発行
 北海民友新聞 第20128号 12月12日 発行
 裏面に北海道通信の記事を載せてあります。



紋別市教委 中学校全校で地域部活動

3年度移行に向け検討

活動機会提供へ環境整備

【網走発】紋別市教委は、令和3年度から市内の全中学校3校の部活動を地域部活動へ移行することを検討している。生徒数の減少で部活動の廃部が続いていることから、地域の協力を得て多様な体験機会を提供する環境を整備するもの。生徒数減少によって廃部となった美術部や茶道部などを対象として段階的に移行する予定。今後、各学校の意見などを踏まえ、具体的な方向性を固める。 ー関連記事2面ー

文部科学省は9月、5年を以降、段階的に休日の学校部活動を地域部活動へ移行し、休日には教員が部活動の指導に携わる必要がない環境の構築、休日における地域のスポーツ・文化活動

を実施できる環境整備等を行う方向性を示した。紋別市内では、教員の負担軽減の必要性に加え、部活動の廃部が続く、生徒の活動機会が減少しているという課題を抱えている。

潮見中学校では、平成30年度に女子バレーボール部、陸上部、美術部が廃部。紋別中学校では本年度、野球部、女子バスケットボール部、男子バレーボール部、総合芸術部（美術部と

とする多様な活動機会を提供することが重要とらえ、地域部活動への移行を検討している。直ちにすべての部活動を地域に移行することは困難と判断し、来年度から段階的に移行することとしている。最初は、土日の活動サポートや、美術部や茶道部など廃部となった部活動の地域移行に取り組む考え。

地教委と関係団体 議論開始呼びかけ

道教委

また部活動の在り方を検討する予定。市町村教委、道スポーツ協会、各競技団体、道文化団体協議会に対しては、国が示した休日の部活動の段階的な地域移行の方向性などに関する議論を開始するよう求めている。

紋別市内3中 初の合同運営協議

指導者確保等で協議

生徒活動機会充実目指す

【網走発】紋別市内の全中学校3校（紋別中学校、潮見中学校、渚滑中学校）の合同運営協議会が8日、市文化会館で初めて開かれた。3校の学校運営協議会の委員や市教委関係者ら15人が出席し、地域部活動への移行にかかわる課題とその解決策をテーマに協

議。指導者の確保や活動場所への移動方法など、様々な課題について確認し、生徒の活動機会の充実に向けて活発に意見を交わした。来賓あいさつに立った堀籠康行教育長は、日本における部活動の歴史や現在の国の動向などを説明した上で、市内で地域部活動へ移行する考えを表明。今回の協議会を通して「皆さんから部活動への思いを聞きたい」と呼びかけた。



今回の協議会を通して「皆さんから部活動への思いを聞きたい」と呼びかけた。

経過報告のあと、「地域部活動への移行について（課題と解決策）」をテーマにグループ別に協議。指導する人材の確保が課題。「活動場所へ移動するための『足』が必要」などの課題を確認した。そのほか、「中学校から高校まで継続して部活動に取り組める環境が必要」「地域部活動を何かを学ぶきっかけにした」となどの声も挙がった。